

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090600042
法人名	北九州福祉サービス株式会社
事業所名	きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱
所在地	福岡県北九州市八幡東区帆柱4丁目1-22
自己評価作成日	平成24年1月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年5月16日	評価結果確定日	平成24年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家改修型であり和風建築の昔なつかしいたたずまいで、庭やその背景に季節の木々を眺望でき施設の中からも季節を感じるこのできごととなっている。
転倒事故防止のために、午前中に体操など機能訓練を実施している。手先や足先、嚙下体操、発声練習などにより身体機能の低下を予防し、また毎日の日時の確認、その日の過去の出来事を話したり、ご利用者の出身地や家族などの話題を出し脳の活性化に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「人生を自由に悠々と過ごし、元気で笑顔のある暮らし」の実現を目指し、「自悠の郷」帆柱と名付けられたホームである。高台に位置し、日本家屋を改修された生活環境は、どこか懐かしく、落ち着いた雰囲気となっており、日本庭園や山々の木々を眺めながら過ごすことが出来る。在宅生活の継続に向けて、様々な介護サービス事業を展開する法人を母体とし、経験豊かな職員も多く、ノウハウの共有や職員育成等、様々な面で連携を図っている。また、運営推進会議への家族の参加も多く、出された意見や要望をもとに、現状に合わせた生活空間のリフォームが行われる等、運営に実際に反映されている。今後も、1ユニット9人という少人数の特性を活かし、個別のニーズやライフスタイルに応じた支援の充実に取り組もうとしており、法人内の専門職の連携も活かしながら、心身の活性化に向けた働きかけを行っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の基本理念・方針を作っている。H23年に新たに「基本理念・方針に基づいた具体的ケア」「認知症介護のキーワード」を作成し、研修を行ったり、掲示してスタッフ全員に周知し、その実践に日々取り組んでいる。	事業所独自の基本理念や方針に基づいた「具体的ケア」や「認知症介護のキーワード・基本8か条」が、詳細かつ具体的な内容で作成されており、研修のテーマとして取り上げ、また、機会あるごとに読み合わせを行い、共有、実践に結び付けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。自治区会の防災訓練に参加した。 近隣の保育園の園児・先生方と定期的に交流している他、散歩の途中に立ち寄ってもらえる関係を築いている。	昨年は、自治会の組長を務める等、地域の一員としての役割を担い、また、介護相談や情報提供の機会も増えている。近隣の保育園児の散歩コースにもなっており、時折、ホームへ立ち寄り寄る機会もあり、また、職員の子供が訪れる機会も多く、入居者の方々の一番の笑顔がみられる。折り紙やウクレレ演奏等、ボランティアの来訪がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方から介護に関する相談を受けた際には、認知症対応をはじめ介護保険制度の説明なども行った。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の方にも運営推進会議に積極的にご参加いただいております。その中で出たご要望やご意見は議事録としてまとめ、月に1回開催するグループホーム会議において検討し、対応を話し合っている。	運営推進会議は、家族、町内会長、地域包括支援センター職員等の出席を得て、定期開催されている。家族の参加が多いことが特徴的であり、出された意見や要望をもとに、リフォームにつながった事例もあり、実際に運営に反映させている。議事録を玄関に掲示している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	統括センター主催のグループホーム懇談会へはできるだけ参加し意見交換を行っている。	年1回、八幡東区統括支援センター主催のグループホーム懇談会が開催されており、参加を通じて、意見交換や情報収集を行っている。運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの手引き」をマニュアルとし、年間の研修計画の中で毎年計画的に身体拘束に関する研修を実施している。 また、止むを得ない身体拘束の事例が発生した場合はマニュアルに基づき記録を残している。	理念をもとにする「具体的ケア」を示し、身体的な拘束や言葉や対応による抑制や虐待について具体的に示し、職員への周知を図っている。日中の施錠は行ってない。年間の研修計画の中に位置付け、職員への共通認識を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画のなかで計画的に虐待に関する研修を実施し、具体的な虐待行為を学び虐待防止に努めている。		

福岡県 きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画でテーマとして毎年取り上げ研修を行っている。	入居時に、権利擁護に関する制度について説明を行っている。現在制度を利用している方はいないが、内部研修の機会を確保し、制度への理解を深め、必要時には活用できるよう取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはパンフレットなどにより、施設や運営状況など書面で説明するようにしている。また、利用者の状態変化により契約解約に至る場合は、本人・家族等と対応方針を相談している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からの意見や不満・要望については、「お客様苦情ご要望シート」に記録し、対応を検討している。また、満足度調査をご利用者様・ご家族それぞれに行い、その意見をもとに業務や環境の改善等を行っている。	運営推進会議への家族の参加が多く、活発な意見交換が行われ、環境整備等、実際に運営に反映されている。満足度調査のアンケートも実施され、多くの意見や要望が出され業務改善にもつながっている。玄関には「要望シート」も準備され、積極的に意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全スタッフが参加するグループホーム会議を開催し、当社本部担当も参加するようにしており、その場で運営に関する意見や提案をしてもらうようにしている。	毎月、全職員が参加するグループホーム会議が開催され、職員意見の収集の機会としている。職員の個人目標を設定し、半年毎に、面談・評価を行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標評価制度を実施しており、半年に1回個々人の目標を設定して、期間終了後にその結果についてインタビューをし評価を行っている。また、その結果は昇級昇格および賞与加算に反映される仕組みとなっている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用については募集職種に適しているかどうかを判断するので、一概に性別や年齢を採用の判断とはしていない。	職員の採用については、特に制限はしていない。法人としての採用となり、面接時にはグループホームの管理者も同席している。個別の家族状況にも配慮しながら研修実施や勤務調整を行い、働きやすい環境作りに取り組んでいる。職員の個人目標を設定し、半年毎に評価を行い、スキルアップやモチベーションの確保につなげている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する教育については、新人オリエンテーションで実施している。また年間研修計画にも盛り込んでいる。	人権教育に関しては、採用時の研修やマニュアルの読み合わせをしている。意識も浸透してきており、新しい視点からの研修も視野に入れている。これまでの研修の積み重ねが「具体的ケア」の作成につながっている。	

福岡県 きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で研修計画をたて、1年単位で計画的に研修を実施している。またスタッフが外部研修を受ける機会を設けるよう勤務の調整をしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	統括センター主催のグループホームの交流会へ毎回参加し、意見交換を行っている。市などからのいただいている研修へ随時参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の相談を受けたら、まず生活状態を把握するように努め、1～3日程度の体験入居をしていただき、その中でご本人様と十分にコミュニケーションをとり、ご要望を汲み取るようにしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談でこれまでの経緯やご家族が困っていることや求めていること入居前の環境なそについてゆっくり聴きアセスメントにまとめている。また、利用料金やケアの内容などの説明を書面で十分に行っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人やご家族の思いや状況などを確認し、当ホームよりも適切なケアができる機関（リハビリが必要な方や医療依存度が高い方など）が他に考えられる場合はご家族様に説明するように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや掃除、庭の花の手入れなど、ご利用様の状態にあった役割をお願いしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪されたときは、居室で過ごしていただく配慮をしたりして家族の時間がとれるように勤めている。行事に家族を誘ったり、よりよい関係の継続に努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の付き添いにて実家に日帰りされる方や昔からの友人が面会にいらっしゃるご利用者がいらっしゃる。	家族の来訪する機会が多く、ともに外出して、温泉や外食を楽しんでいる方もいる。家族関係機能の活用を重視し、つながりを継続できるよう、また、心身の活性化に結び付けている。居室にCDプレーヤーが持ち込まれ、好きな歌手の歌を楽しめるよう配慮している。	

福岡県 きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の相性を考慮して、座る位置を決めるなど配慮している。また日常の話題もご利用者間にスタッフが入り、話題の提供をして会話がはずむよう配慮している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居後も要望があれば必要情報の提供など相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族、関係者などから聴き取り、アセスメントや介護計画に反映させるようにしている。介護計画の評価の際には、必ずご本人様にインタビューをして思いや意向を聞き、介護計画の作成に反映させている。	入居時に、家族の協力を得ながら、センタ-方式を一部活用した情報収集を行っている。また、日頃の生活の中での気づきを大切にして、アセスメント情報の更新を行い、介護計画の作成に反映させている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで生活歴を聞き取るようにしている。また入居された後もご利用者様から聞いた生活歴に関する情報をスタッフで共有し、ご家族にもその内容を伝えている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの暮らし方や生活リズムを把握するようにしている。日常生活の中でいつもと違う行動や言動があった場合はすべてケース記録に記載し、常に最新の情報と本人の全体像がスタッフに伝わるように心がけている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、グループホーム会議にてスタッフ全員で利用者や家族の要望や状態変化を確認し、介護計画の遂行状況、見直し、評価を行い、新たな介護計画の作成に反映させている。	毎月、職員全員が参加するカンファレンスにて個別の協議を行い、現状の確認や見直しの必要性について話し合いを行っている。	法人内の専門職の連携も活かしながら、個別のニーズを検討し、心身機能の維持・活用に向けた視点を加味しながら、日々の暮らしの中に取り入れていくことを検討している。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの記録は個別に介護記録に記載し、日常生活に変化があった場合はすべてケース記録に記載し、スタッフ全員が情報を共有するようにしている。介護計画の見直しの際にもそれらの記録をもとにご利用者の状況把握に役立てている。		

福岡県 きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者への支援はどこまでホームでどこまでご家族がと決めずに、都度ご相談しながら運営している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域の折り紙ボランティアをお願いし、ご入居者の皆さんと作品作りをしている。近隣の保育園からは散歩途中に寄っていただき、交流している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医に往診に来ていただき、ご利用者の健康状況をチェックいただき、日常スタッフが配慮すべき点についてのアドバイスをいただいている。また歯科についても希望があれば往診をお願いしている。	入居時に、かかりつけ医について確認を行っている。もの忘れ外来が設けられている協力医より、月2回の往診が行われており、適切な医療を受けられるよう努めている。歯科については、随時の往診が可能となっている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、週3回看護師が勤務しており、医療的な面での観察・把握を行っている。介護職からの情報や気づきも報告を受け、随時対応を行っている。往診時は看護師も一緒に対応し、医師への相談等を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者が入院された場合は病院のソーシャルワーカーと退院後の対応や時期などについて、連携をとり常に情報交換を行っている。また救急搬送先がある程度限定されており、連携しやすい関係もできている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針は「重度化した場合における対応に関わる指針」にまとめているが、具体的にご家族と事前に話し合いは行われていない。	入居時に、「重度化した場合における対応に関わる指針」をもとに、事業所としての方針を説明している。状況の変化に伴い、家族、本人の意向や医療関係者の意見をもとに、関係者間での話し合いを行っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応マニュアルを作成している。マニュアルをもとにした研修を行っている。今年はスタッフ1名が「応急手当普及員」の資格をとり、スタッフ全員に研修を行った。		

福岡県 きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画および避難計画を作成し、年2回、内1回は消防署に参加いただき消防・避難訓練を夜間も想定して実施している。	近隣に在る消防署の協力を得ながら、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施し、入居者も参加している。また、町内に住む職員も多く、職員家族への協力要請も行われている。周辺環境も踏まえ、行政にも相談しながら、その他の災害についても検討を行っている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いは基本的には敬語をつかうこととしているが、親しい言葉遣いなど個々に適した使い分けを心がけている。	詳細に示された「具体的ケア」の内容は、個人の尊重やプライバシーの確保が重視されており、研修や読み合わせを行い、職員個々の意識を深め、共有認識を図っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、ご入居者の思いや希望を汲み取るよう心がけている。また、何かを問いかける時にはご利用者が決めやすいように選択肢を少なくして問いかけるようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活リズムを大事にしながら、食事や掃除などある程度決まった時間帯以外は個々に自由に過ごしていただいている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起きたらまず着替えをしてもらい、居間に集まる前に洗面台で髪をといたり、身だしなみを整えるよう声かけている。また普段着られている服について声をかけ常に身だしなみに意識をもっていただけるようにしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所がご利用者のすぐ近くにあり、食事の準備のときから食材や調理方法、メニューの話をしており、その中でご入居者の食べたいものなど希望があれば取り入れるようにしている。	近隣の同法人デイサ - ビスの栄養士により作成された献立をもとに、調理担当職員により食事作りが行われている。嗜好調査を行い、また、個別の状況にあわせて柔軟な対応が行われている。プランタで野菜作りを楽しみ、食卓を賑わせることもある。会話も弾み、和やかな食事風景が見られた。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取チェック表を作成して、1日に必要な水分量が摂取できているかを確認している。栄養士が献立を作成し、必要なカロリーが摂取できるようにしている。		

福岡県 きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを実施したのちスタッフが口の中の残渣物がないか、出血や口内炎などがなければのチェックを行っている。また必要に応じ訪問歯科をお願いしており、口腔内の異常があれば相談している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけて個々の排泄の時間などパターンを把握し、定期的にトイレに誘導している。	排泄チェック表を活用し、個別の状況やパターンを把握して、さりげない声かけやトイレ誘導を行っている。夜間も安易におむつを使用せず、個別の状況やニーズへの対応に努めている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を作成してご利用者の排便の回数や状態を把握している。スムーズな排便のために牛乳や食物繊維を十分にとり、適度な運動を勧めるように心がけている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールはある程度決めているが、入浴前には個々に意向を聞き、無理に進めずその都度調整をしている。	週3回の基本的な入浴スケジュールは設定しているが、希望や状況に応じて、柔軟な対応に努めている。近所の方より庭先の「柚子」を頂き、「柚子湯」を楽しむこともある。また、家族とともに、温泉を楽しむ方もいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠を十分にとってもらえるように日中は極力起きておいていただくようにしている。個別の睡眠パターンを把握して就寝時間や起床時間を出来る限り自由にできるようにしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の服薬については薬の一覧表を個人ファイルに閉じて各スタッフが確認するようにしている。誤薬がないように服薬管理表で確認している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて掃除や洗濯物干し、たたみなどの役割を担ってもらい、責任をもって取り組んでいただいている。好きな歌手のCDを居室で楽しんでもらっている。童謡や歌謡曲などみなさんと合唱することも多い。		

福岡県 きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日常的に庭のプランターやお花の世話などをしてもらい、戸外にできるようにしている。また、季節の花を見学ドライブに出かけたり、その際はご家族も同行していただきお手伝いいただいている。</p>	<p>庭先にあるプランターで野菜を育てたり、周辺の散歩に出かけている。また季節に応じた外出行事を企画している。ホームの周囲は急な坂道となっており、散歩が困難な方もいるので、個別の外出支援の充実を視野に入れている。中庭は眺望も良く、気軽に外気浴を行うことができる。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外食や個人の買物などに出かけた際には、個別にお金を払っていただいている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご利用者の電話の希望がある際は電話をかけていただいている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>民家改修であり、玄関や廊下などそのまま利用しているので普通の家と同じ雰囲気である。また共用スペースから庭やその後ろの山々を眺望でき季節感を感じることができる環境である。</p>	<p>2階建ての日本家屋を改修しており、リビングからは、大きな庭石が配された日本庭園や、周囲の山々の様子も眺められ、趣き深い佇まいである。以前設けられていた和室スペースの掘り炬燵は、身体状況も鑑み改修され、現在はソファが設置され、新たな空間が確保されている。木の温もりのある、落ち着いた雰囲気のある共用空間となっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室への移動は自由であり、ひとりになりたいときには居室で自由に過ごしていただいている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご利用者が使い慣れた家具を持ち込んでいただくなどご家族と相談しながら工夫している。個別に好みのカーテンやのれん、家族の写真などが持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。</p>	<p>日本家屋を改修、増築し、ゆとりある居室スペースが確保されている。表札や防災加工された暖簾が掛けられ、筆筒や鏡台、大切な写真等が持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。CDプレーヤーが持ち込まれ、お気に入りの歌手の歌を楽しむ方もおり、これまでの暮らしの継続を支援している。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレに「便所」と大きく表示 ・各居室に表札をつける ・日めくりカレンダーで日付を確認 ・洗濯物を共用スペースから見える位置に干す 		